

平成 27 年 5 月 8 日

千葉木鶏クラブ

(360 回 例会)

## 孔子と『論語』

流行り廃りが行き交う現実の世界。

『論語』には、流行り廃りなく、いつの時代でも心の栄養剤です。

増してや尊敬してやまない「安岡正篤」先生、直々の講話は、正に含蓄の宝庫であります。

「孔子と『論語』」、早くも 6 回目となりました。

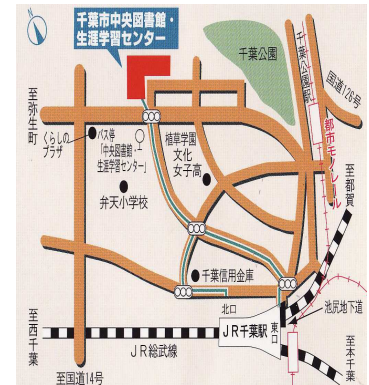
古の教えを学びながら人生を語り合ひましょう。

どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

### 記

1. 日 時 : 平成 27 年 5 月 23 日 (土)  
AM 9 時 30 分 ~12 時 00 分
2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811  
〈交通案内〉JR 千葉駅東口から 徒歩 8 分 駐車場有り
3. 会 費 : 1000 円
4. 演 題 : 「素朴と文化」・「信と義」
5. 講 師 : 安岡 正篤先生/鈴木 岳靖 先生
6. レジューメ :



#### (1) 第一部 孔子と『論語』

〈第 6 回 素朴と文化〉 『安岡正篤』講話選集より抜粋

『論語』 里仁第四 <富貴と貧賤>

子曰く(しのたまわく)、質・文に勝てば則ち野なり。文・質に勝てば史なり。

文質彬彬(ひんびん)として、然る後に君子なり。

解説: 質とは、物の内容をなしている実態、創造成長の営みをなす潜勢力で、それが外に現れて、我々の感覚意識に好ましく映ずるものを文という。

近代都市は史の代表であり、農山村は野の代表である。農山村と都市を、どう彬々たらしめるか、これをいかに正しく調和するか。

これは政治の根本問題である。「好人或いはまた荒山中より出でん」

文化の根本的見地からすれば、文が質に勝って軽薄になるよりは、質が文に勝つ野性的な方が望ましいことである。

〈『致知』5月号『論語』と二宮尊徳 信と義について〉 寺小屋石塾主宰 岩越豊雄

『論語』(学而偏 十三)

恭、礼に近きときは、恥辱に遠ざかる。

困、其の親を失わざれば、亦宗とす可し。

#### (2) 第二部 『東洋学と詩吟』

指導 鈴木 岳靖 先生

岳風会 (日本詩吟学院)

以上

千葉木鶏クラブ 代表兼事務局 丸島 忠夫

Email: [marushima\\_t@snow.plala.or.jp](mailto:marushima_t@snow.plala.or.jp) Tel: 0475-25-1211 Fax: 0475-38-5153